

巻 頭 言

富山県高等学校教育研究会
情報部会長 宮 岸 毅

富山県高等学校教育研究会情報部会の会員各位には、日頃から本会研究活動にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。また情報科担当者には、他教科との兼務者やネットワーク管理者も多いことと思います。日々の教育指導へのご尽力に対して敬意を表します。

本年度の事業活動を振り返れば、昨年度に引き続き、砺波高等学校の事務局運営のもと、役員の皆様のお陰によりスムーズに進めることができました。特に6月の総会では、懸案事項であった全国高等学校情報教育研究会(全高情研)への加盟申請について、年会費が不要であることを確認した上で決定されました。

10月の研究発表大会では、徳道教諭[新川みどり野高校]が「ユニバーサルデザインを生かした情報の取り組み」、高島教諭[伏木高校]が「本校のICT教育と情報教育環境について」のタイトルにより、それぞれが、楽しさを実感できる授業デザイン、情報機器の活用とモラル教育の視点から、生徒や学校の実態に即した実践研究を発表いただきました。また、鹿野利春氏[文部科学省教科調査官]による講演「次期学習指導要領の改訂動向と教科『情報』」では、ワーキンググループでの検討も含めた最新の情報を、わかりやすく詳細に解説していただき、時宜を得た示唆となりました。

さて、今後の情報社会の中で注目されるAI(人工知能)については、囲碁のプロ棋士との対戦や大学入試センター試験へのチャレンジなどの話題性から、流行語としても広く知られることになりました。AIやロボットの技術はIoTと結びつき、今後の情報化の進展は一層目まぐるしくなろうと予想されます。さらには、情報や機械の技術革新によって、近い将来に多くの職業が消え、今の仕事が半減することが指摘されるなど社会に及ぼす影響も大きいものと思われまます。

次期学習指導要領改訂にあたっては、このような社会変化を踏まえ、情報科は、「情報Ⅰ」・「情報Ⅱ」の新しい科目構成の中で、主体的で深い学びを追求し、情報活用能力や情報セキュリティについて確実に学習すること、将来の情報社会に必要な技術や考え方を身につけていくことが重要とされます。本会としては、日常的な教育実践の充実に努めるとともに、教育内容や方法の改革動向を注視し研鑽を積んでいくことで、情報科教育の発展に寄与するという役割を担っていくことが大切です。

結びに、富山県教育委員会県立学校課、富山県総合教育センター科学情報部には、引き続き、温かいご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。今後も、本会の一層の発展を祈念してご挨拶といたします。